

中南米・中東欧における欧米銀行のリテール金融業の展開

東北学院大学 伊鹿倉 正司

近年の金融グローバル化議論は、主に情報通信技術や新たな金融取引手法の発展、為替管理・資本規制の緩和等を背景とする各国金融市場の統合といった金融市場レベルでの議論が中心であるといえる。しかし一方で、途上国金融機関をターゲットとした先進国金融機関による M&A の急激な増加を背景として、金融機関レベルでの金融グローバル化議論も活発に行われ始めている（BIS [2004]）。

1990 年代前半までも、先進国金融機関は途上国（特に中南米・アジアといったエマージング諸国）における金融活動を積極的に展開してきた（例えば米国の Citibank や Chase Manhattan、英国の HSBC 等）が、現地金融活動の多くは自国企業向けの貿易金融業務や貸付業務等が中心であった。しかしながら、1990 年代後半以降、幾つかの先進国金融機関は、自国企業向けのホールセール金融サービスにとどまらず、現地企業・個人向けに多様なリテール金融サービスの提供を行っている。このような近年の国際金融業の新たな展開（現地リテール金融サービスの展開）は、現地金融機関を買収し、既存の顧客や広範な支店ネットワークを手に入れることにより可能となる。

本報告では、欧米系金融機関の進出が著しい中南米・中東欧地域を対象に、以下で示す 4 つのパートに分けて報告を行う。まず、第 1 パートでは、欧米系金融機関の最近の進出状況を概観する。第 2 パートでは、1990 年代後半以降に欧米系金融機関の進出が急増した理由を様々な観点より考察を行う。第 3 パートでは、中南米地域ではブラジル、中東欧地域ではポーランドを対象を絞り、欧米系金融機関による現地リテール金融サービスの取り組みを明らかにする。そして第 4 パートでは、以上の 3 つのパートで明らかになった中南米と中東欧の類似点・相違点をまとめる。

BIS Committee on the Global Financial System [2004], *Foreign direct investment in the financial sector of emerging market economies*, BIS.